

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月7日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02521

研究課題名(和文) 名詞を核とするコロケーションの収集と整理 - 日独対照表現データベースの作成 -

研究課題名(英文) Research on collocations and combinations of basic nouns for the purpose of developing a more useful Japanese-German dictionary

研究代表者

恒川 元行 (TSUNEKAWA, Motoyuki)

九州大学・言語文化研究院・学術研究者

研究者番号：70197747

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：日独対照表現データベースの具体化のために、本研究ではさまざまな理論的分析・考察や実証的試行錯誤を行った。その成果は、主として3点である：ドイツ語コロケーション辞典Quasthoff (2011)、Buhofer (2014)の記述、DWDSデータの比較によるそれぞれの特質の把握；日本人の日常生活に関わる基本的名詞の試行的コロケーション記述；複合名詞・形容詞の研究。の比較によつては、a)全体で見した場合のデータ間の一致率の低さ、b)各辞書、DWDSデータごとに見た場合の中核的共起動詞の相対的な比率の高さ、c)中核的共起動詞とlogDice係数との緩やかな対応関係が明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日独対照表現データベースの具体化を目指す研究は、社会的に見てまず和独辞典、独和辞典の改善に寄与し、ドイツ語教育の充実に貢献するだけでなく、和独辞典の枠組みを超える、日本人にとって真に実用的な日独対照表現集実現への第一歩である。学術的には、コロケーションに代表される「句」という言語単位的重要性を日本語、ドイツ語の名詞について実証し、外国語教育における「語」の偏重を見直す、名詞コロケーションの究明を通じて「予測を可能にする言語知識」の一端を具体的に解明する、人間の世界認識のあり方との関わり点から名詞の重要性を考察するなどの意味を持っている。

研究成果の概要(英文)：As preparation for a Japanese-German database of collocations and combinations of basic nouns, this research has tried to grasp the characteristics of the German collocations dictionaries, Quasthoff (2011) and Buhofer et al. (2014), by comparing their descriptions of 12 basic German nouns with the DWDS-Wortprofil data. It has found out: a) little correspondence between the collocations and combinations entered in the dictionaries and the DWDS data viewed as a whole, b) relatively high ratio of the common collocating verbs in the dictionaries and the DWDS data respectively, and c) loose correspondence between the collocating verbs and their ranking based on logDice score. This research has also dealt with trial description of collocations and combinations and the analysis of compound nouns and adjectives as a sort of collocation.

研究分野：ドイツ語語彙論

キーワード：コロケーション 名詞 日独対照 表現データベース 和独辞典 複合語

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 名詞語彙の重要性の理解

Hausman はすでに 1985 年に、コロケーションの基語 (Basis) として働く最も重要な品詞が名詞であることを、「すなわち、テキストの産出は基語から共起語 (Kollokator) へと進む。…基語の最も重要な品詞は名詞である。なぜなら、私たちが話題の対象とする、この世界の事物や現象を表すのは名詞だからである。形容詞や動詞が基語として問題になるのは、副詞によってさらに限定を受ける場合のみである。」と指摘している (1985:119)。Cowie (2009:284) もまた、コロケーション辞典 Selected English Collocations (1982) の「名詞を中心とする方針」を「名詞から動詞・形容詞の順に検索するものでその逆ではないという認識を反映している」と評価している。

(2) 名詞コロケーション記述の状況

現行のドイツ語辞書編纂においてはしかし、コロケーション基語としての名詞の重要性は十分共有されていない。たとえば、Kempcke: Wörterbuch Deutsch als Fremdsprache の凡例 (2000:XIV) には、ein Gerät erproben 「器具をテストする」を例にコロケーションの掲出個所に関する短い議論があるが、名詞 Gerät は「用法の中心にない」ため、この例は動詞 erproben の項目に掲出されると説明され、実際、名詞ではなく動詞 erproben の項目に採録されている。また、大規模コーパスに基づいて編纂された Quasthoff のコロケーション辞典 (2011) は、見出し語 3253 語のうち 2346 語 (72.1%; p.x 参照) が名詞であり、ほとんど名詞のコロケーション辞典となっているが、名詞の重要性に関する言及は見当たらない。

確かにドイツ語辞典においても、コロケーション記述の着実な進展が見られる。例えば基本的な学習辞典 Langenscheidt Großwörterbuch Deutsch als Fremdsprache. には区切られた「コロケーション欄」が設けられ、2010 年の新版以降は凡例にもコロケーションの独立した説明欄が追加されている (p.24f.)。しかし、一般的にコロケーションの採録はまだ貧弱であり、ins Café gehen 「喫茶店へ行く」、den Regenschirm aufspannen 「傘をさす」など、コロケーションが名詞の項目に見当たらないケースも多い。

日本のドイツ語教育を考えてみても、学習に必要な独和辞典における基本的な名詞のコロケーション記述をより充実させる必要があることは、ドイツ語学習上の最も基礎的な語彙 4000 語をコーパスデータに基づいて抽出・整理した Tschirner (2008) において、名詞が約半数 (1838 語 = 45%) を占めているという事実からも明らかである。独和辞典の改善は、この意味で、基本的な名詞の記述充実に他ならない。

(3) 和独辞典の現状

和独辞典の名詞項目の記述充実もまた、大きな課題である。たとえば「湯船」の記述は、大半の和独辞典において対応名詞 Badewanne の掲示だけであり、コロケーション「湯船につかる」「つかっている」などは採録されていない。また、「帽子」の多様なコロケーション、「帽子をかぶる」「深くかぶる」「あみだにかぶる」「かぶっている」「脱ぐ」「とる」「(帽子掛けに) 掛ける」「(あいさつのために) ちょっと持ち上げる」などを一つの和独辞典で知ることができない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、以上の状況を踏まえ、日本人利用者にとって真に実用的な、日本語名詞を見出しとして立てた日独対照表現データベースを試作することである。対象名詞は、日本人利用者にとっての実用性を第一とするため、日本人の日常生活に密接に関わる基本的な生活語彙 (駅/Bahnhof, 喫茶店/Café, 薬/Medikament, 靴/Schuh, 帽子/Hut など) とすることを念頭に置いた。作業手順は、日本語コーパスを利用した名詞を核とするコロケーションの収集・整理、ドイツ語コーパスを利用した対応ドイツ語名詞のコロケーション調査、およびその総合とインフォーマントチェックである。

3. 研究の方法

「4. 研究成果」に合わせて記述する。

4. 研究成果

日独対照表現データベースを試作するという目的のために、本研究ではさまざまな理論的分析・考察や実証的な試行錯誤を行った。その成果の一端は、各種の紀要の研究報告、支部学会や関連科学研究会での研究発表の形で報告した。本研究の過程で得られた知見の多くはしかし、いまだ部分的成果にとどまり、研究期間内に全体として統一された成果にまとめ上げることは残念ながらできていない。

たとえば、「形容詞 + 名詞」、「副詞 + 形容詞」コロケーションに平行する言語単位としての複合名詞・複合形容詞の研究では、支部学会において Duden 発音辞典最新版での関連する二重アクセント記述方針の転換に注意を喚起した。また、ドイツ語研究所コーパス検索システム COSMAS の複合語検索オプションについては、複数回の質疑の結果、利用に関する注意書き「Vorbehalt」が説明に追加された。これもしかし、全体としてはまだ研究途上である。

また、表現データベースに関しても、特定の見出し語に関して日本人が必要とする日本語表現

を収集・整理するための手順、また日本語にドイツ語表現を対応させる手順が十分に確立できていない。名詞「帽子」「指輪」「風邪」「犬」「猫」などの記述は、そのため未だ試行段階にある。

ここではしたがって、2011年以降相次いで刊行された、以下の2冊のドイツ語コロケーション辞典の特質把握を目的として実施した、最も基礎的な一連の比較・分析の結果を略述し、研究成果の報告とする。この比較・分析は、DWDS-Wortprofil から得られるデータを比較の第三者として利用したことから、同時にDWDSの特質把握にもなっている。

・Quasthoff, U. (2011): Wörterbuch der Kollokationen im Deutschen. Berlin.
(以下「Q」と略記)

・Buhofer, A.H. et al. (2014): Feste Wortverbindungen des Deutschen: Kollokationenwörterbuch für den Alltag. Tübingen. (以下「B」と略記)

(1) コロケーション辞典およびDWDSデータの検証Ⅰ

データ一致率(重なり)の低さ

本研究ではまず、いくつかの名詞についてQ、Bの記述同士の比較、次にDWDSコーパスデータとの比較を行った。検証のキーワード(表1の「見出し語」とした名詞の選択に関しては、井口・恒川ほか(2018:57)を参照。なお、検証作業全体には当該名詞が1格主語の場合の共起動詞、共起付加語形容詞の比較も含まれていたが、ここでは紙幅の都合から、当該名詞を4格目的語とする共起動詞の比較に限定して報告する。

表1は、「見出し語名詞=4格目的語」の場合の、Q、Bに採録された共起他動詞データの一一致・不一致を調べたものである。例えばAbfall「ごみ」の場合、Qには共起動詞として26動詞が、Bには15動詞が挙げられている。これらの異なり語数は31であり、うち10動詞が両者に共通している(一致数)。したがって、Q、B間のコロケーション・データの一一致率は $10 \div 31 = 32.3\%$ となる。

一般に、特定の語には一定範囲の特定のコロケーションが予想されるため、コロケーション辞典には多くの共通共起語が見られるだろうという素朴な期待がある。表1の数値はしかし、この期待に反し、Q、Bのコロケーション記述間の一致(重なり)がおおむね2~3割程度と低く(一致率)、両辞典の挙げる共起語には相互に共通しない例の方が多くを示している。

DWDS-Wortprofil共起語データとの比較結果を示す表2についても同様であり、一致率はおおむね3割強と高くない。Abfallの場合、三者間のデータの一一致率は「一致数」14÷「異なり語数」40=35%である。DWDS共起動詞リストはlogDice係数に基づいており、この係数は「語と語の結びつきの強さを表す...コロケーション統計では最もバランスのとれた指標の一つ」(柴・趙2017:32f.)とされていることから、辞典記述との一定の整合性が期待される。しかし、この場合にも満足のいくような一致(重なり)は認められなかった。

表1

見出し語	Q	B	異なり	一致数	一致率
Abend	14	2	15	1	6.7
Abfall	26	15	31	10	32.3
Brot	19	11	24	6	25.0
Computer	52	15	55	12	21.8
Hund	13	20	28	5	17.9
Hut	5	12	13	4	30.8
Brunnen	0	2	2	0	0
Duft	4	8	11	1	9.0
Kälte	4	4	5	3	60.0
Müll	42	8	43	7	16.3
Obst	11	5	13	3	23.1
Suppe	11	6	13	5	38.5

表2

DWDS	異なり	一致数	一致率
15	25	5	20.0
19	40	14	35.0
20	33	12	36.4
20	60	20	33.3
18	37	10	27.0
19	19	12	63.2
17	17	2	11.8
19	22	8	36.4
13	14	4	28.6
19	47	17	36.2
20	25	9	36.0
20	25	8	32.0

表1: Q=Qに挙げられている共起動詞の数; B=Bに挙げられている共起動詞の数; 異なり=Q、Bに挙げられている共起動詞の異なり語数; 一致数=Q、Bに共通する共起動詞の数; 一致率=異なり に占める一致数の割合(重なり率)。

表2: DWDS=DWDS(「ドイツ語デジタル辞書」コーパス)の示す共起動詞「logDice順上位20位リスト」の該当数。20未満の数値は混在する非該当例を除外した場合; 異なり=Q、B、DWDSの示す共起動詞の異なり語数; 一致数=Q、B、DWDSのいずれか2つ、ないし3つ全部に共通する共起動詞の数; 一致率=異なり に占める一致数の割合(重なり率)。

DWDSデータに付随する問題点

の比較に際しては、DWDS-Wortprofilの共起語データに、言語データの統計的分析に深く関わる、誤った統語分析や形態素分析をはじめとする様々な問題が付随することが明らかに

なった。たとえば、次のような例が見られる：

当該名詞が 4 格目的語 (「ist Akk./Dativ-Objekt」) の場合
 自動詞 sitzen, beten, auftreten, telefonieren, tanzen の混入 (Abend); 自動詞
 anfallen の混入 (Abfall); ausfahren = ausführen の誤分析、自動詞 bellen の混入
 (Hund); zeihen = ziehen の誤分析 など
 当該名詞が 1 格主語 (「ist Subjekt von」) の場合
 他動詞 verwerten の混入、自動詞用法と他動詞用法の混在 (enthalten, wiegen) 過去分
 詞形副詞の混在 (getrennt halten) fällen = anfallen の誤分析、「低下、凋落」の意味
 の混在 (reduzieren)(以上すべて Abfall) など

データの利用には、このような非該当例の除外が不可欠である。DWDS-Wortprofil ではし
 かし、さらなる問題として、確認のための用例の表示機能が著作権法上の理由から大きく制限
 される場合もある (「Abfall = 4 格目的語」の場合: reduzieren, wiegen など)。このよう
 な場合には、確認作業が困難になる。また、田野村 (2010:4) の指摘するコーパスデータの
 「重出・重複」問題が、DWDS データでも随所で確認されている。

(2) コロケーション辞典および DWDS データの検証 II

本研究では次に、表 1 冒頭の 6 名詞 (Abend, Abfall, Brot, Computer, Hund, Hut) を
 対象として、共通領域に注目した比較を行った。共通領域とは、2 つ以上の辞書または DWDS に
 共通してみられる共起動詞の全体を指す。次表 3 「Abfall」の場合、辞書と DWDS のすべてに
 共通する entsorgen から、Q、DS の 2 辞書に共通する wegwerfen までの 15 動詞である。こ
 の比較では、データの幅を広げ客観性を高める目的で、従前から一種のコロケーション辞典とし
 て用いられてきた Duden. Das Stilwörterbuch. 2017. (以下 DS) を比較に加えた。

一致率を低くする原因

表 3

Abfall	ごみを					(左下の続き)		
entsorgen	処理する	Q	B	DS	D01	recyclen	リサイクルする	D15
verwerten	[再] 利用する	Q	B	DS	D04	zurücklassen	あとに残す	D18
beseitigen	取り除く	Q	B	DS	D17	aufsammeln	拾い集める	D19
verbrennen	焼却する	Q	B	×	D07	anliefern	運び込む	D20
einsammeln	集める	Q	B	×	D10	abtransportieren	搬出する	Q
deponieren	保管する	Q	B	×	D12	auflesen	拾い上げる	Q
sammeln	集める	Q	B	DS	×	einlagern	保管場所に入れる	Q
lagern	ためておく	×	B	×	D02	einsparen	削減する	Q
sortieren	分類する	Q	×	×	D05	exportieren	輸出する	Q
abladen	下ろす	Q	×	×	D06	loswerden	厄介払いする	Q
produzieren	生み出す	×	B	×	D16	verarbeiten	加工する	Q
hinterlassen	あとに残す	Q	B	×	×	verfüllen	埋める	Q
trennen	分別する	Q	B	×	×	vergraben	埋める	Q
vermeiden	回避する	Q	B	×	×	verringern	減らす	Q
wegwerfen	投げ捨てる	Q	×	DS	×	zerkleinern	細かくする	Q
						zwischenlagern	一時保管する	Q
kompostieren	たい肥にする				D08	zurücknehmen	再び引き取る	Q
ablagern	ためておく				D09	erzeugen	発生させる	B
kippen	空ける				D11	verursachen	生じさせる	B
wegräumen	取り除く				D13	werfen	投げる	B
endlagern	最終貯蔵処分する				D14			

* D03=anfallen(自)は非該当のため除外

上の表 3 からは、共通領域の共起動詞が 15 であるのに対し、共通領域に入らない、Q、B、
 DWDS がそれぞれ独自に採録している共起語 (kompostieren ~ werfen; 以下、非共通領域)
 の異なり語数が 25 と多いことがわかる (上の表 2 では、この両者の合計 40 を分母として一致
 率の 35.0% が計算されている。ただし、表 3 には DS が含まれないため、分布は厳密に言え
 ば共通領域 14 + 非共通領域 16)。Abfall の場合に限らず、このような非共通領域の異なり語
 数の多さは表 1、表 2 の名詞すべてに当てはまり、これが結局、全体で見た場合の Q、B、DWDS
 間のデータ一致率を押し下げる原因となっている。

辞書および DWDS ごとに見た場合の共起語の割合

これに対し、表 3 で B の列だけを見ると共通領域に 12 動詞が入っており、これが非共通領域
 の 3 動詞を加えた B 全体の異なり語数 15 に占める割合は 80% と高い。これは、B が Abfall
 の記述の中に、他のデータと共通性のある共起動詞を比較的適切に採録していることを示して
 いる。これに対し、Q の場合、共通領域に B よりも多い 13 動詞が入っているが、こちらは非共

通領域にも 13 動詞あり、異なり語数全体 26 に占める割合は 50%と相対的に低くなっている。Q は共通共起動詞も適切に採録しているが、コロケーション理解の幅が B よりも広く、その結果、採録語数が多くなり、割合が低くなっていると思われる(表 4 の Abfall の表を参照; Abend、Computer の表も; なお、Q は一般にコロケーション採録数が多く、特に共起形容詞には極端な例が見られる: Abend 91 (B は 16)、Entscheidung 204 (B は 46) など)。

下の表 4 は、Abfall も含め、上記 6 名詞ごとに、共通領域に入っている Q、B、DS、DWDS それぞれの挙げる共起語の数と割合をまとめたものである。この表からは、B や DS の数値が比較的高く (Abfall、Computer)、DWDS はおおむね中程度である (Abfall、Brot) ことがわかる。全体としてこれらの数値からは、いずれの辞書、DWDS も共通領域のコロケーションの抽出・採録に努力している様子がうかがえる。

表 4 Abend

	Q	B	DS	DWDS
異なり	14	1	6	15
共通	6	1	4	7
%	42.9	100.0	66.7	46.7

Abfall

	Q	B	DS	DWDS
異なり	26	15	5	19
共通	13	12	5	10
%	50.0	80.0	100.0	52.6

Brot

	Q	B	DS	DWDS
異なり	19	11	12	20
共通	11	7	6	11
%	57.9	63.6	50.0	55.0

Computer

	Q	B	DS	DWDS
異なり	52	15	9	20
共通	19	11	9	15
%	36.5	73.3	100.0	75.0

Hund

	Q	B	DS	DWDS
異なり	13	20	13	16
共通	8	11	10	12
%	61.5	55.0	76.9	75.0

Hut

	Q	B	DS	DWDS
異なり	5	12	12	19
共通	5	11	7	12
%	100.0	91.7	58.3	63.2

「異なり」= Q、B、DWDS それぞれの共起動詞の異なり語数; 「共通」= 共通領域における Q、B、DWDS それぞれの共起語の数

logDice 係数順位との緩やかな関わり

Q、B、DS、DWDS がそれぞれコロケーションの抽出・採録に努力している様は、DWDS-Wortprofil の logDice 係数順位 (表 3 の D01~D20) から窺うことができる。表 3 から具体的にわかるように、Abfall の場合、共通領域には D01~D07 までの上位の 6 動詞 (D03 = 自動詞 anfallen を除く) が入っており、逆に比較的下位 (D11~D20) の 7 動詞は非共通領域にある。もちろん、D12、D16、D17 や 21 位以下の動詞 (D 列「×」の 5 動詞) も含まれており、全面的な対応ではないが、共通領域と logDice 係数との緩やかな関わりを見て取ることができる。各名詞の共起動詞のうち特に D01~D05 に限って見れば、Abend を例外 (2 動詞のみ) として、他の 5 名詞では 5 つ全部 (Brot、Hund) または 4 つ (Abfall、Computer、Hut) が共通領域に含まれている。Computer、Hut の場合はさらに、D06~D10 のうちの 4 つもまたこの共通領域にある (表 5 参照; Finger の場合については、井口・恒川ほか 2019 の第 4 章参照)。

以上、および から見れば、共通領域をコロケーションの大まかな中核部分と考えることができると思われる。

表 5: DWDS-logDice 係数順位に見た共通領域の共起動詞数

LD 順位	Abend	Abfall	Brot	Computer	Hund	Hut
D01~05	2	4	5	4	5	4
D06~10	0	3	1	4	2	4
D11~15	4	1	3	3	3	2
D16~20	1	2	2	4	2	2
非共通領域	8	9	9	5	4	7

「非共通領域」= DWDS-logDice 係数順位 20 位までの共起動詞のうち Q、B、DS と共通していない動詞の数

(3) まとめ

以上、もっぱらドイツ語の側から、Q、B、DS、DWDS から得られるコロケーション情報の特質を明らかにするために行った基礎的研究の概略を述べた。コロケーションの中核部分は、もし明らかにすることができれば、独和辞典、和独辞典の改善に大きく貢献するものと思われる。現段階ではしかし、Q、B、DWDS それぞれ単独から十分なコロケーション情報を得ることができない。重ね合わせることで、ようやく中核がおぼろげに見えてくる程度である。

表 3 に添えた日本語表現からも明らかのように、共起語を具体的に見ていくと、共通領域と非共通領域との間に納得のいくような境界線が引けるようには見えない。今回の調査では 20 位までとした DWDS-Wortprofil リストを仮に 50 位までに拡大すれば、Q、B と共通する共起動詞もまた増える。言語には「語と語の間における...習慣的な共起関係」(堀 2009:7) が幅広く

存在するが、一部の特異な例を除き緩やかに広がるすそ野のように分布し、一定数をコロケーションとして明確に限定して取り出すことには困難が伴うのではないかと思われる。

日本人利用者にとって真に実用的な日独対照表現データベースの試作という観点からは、ドイツ語の場合に並行する形で、NLB(国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス BCCWJ』のための検索システム; NINJAL-LWP for BCCWJ) および日本語コロケーション辞典『てにをは辞典』を利用し、特定の見出し語に関して日本人が必要とする可能性のある表現の集合を一定の客観性に基づいて明らかにすることが必要となる。この場合にもしかし、類似の問題が生じる。NLB から得られる「風邪が」のコロケーション数は 40、「風邪を」は 39、「風邪に」は 37 と比較的限定されているに対し、「ごみを」は 169、「指輪を」は 111 である。表現データベースの場合、採録表現の範囲をコロケーション辞典の場合より緩やかに設定できるとしても、その限定にはさらなる研究による知見と試行的記述に基づく経験の積み重ねが必要である。

引用文献

- 柴宝華・趙海城(2017): コーパスに基づいた類義語分析 - 「見落とす」「見過ごす」「見逃す」を例に - . 明星大学研究紀要 . 人文学部 . 53 , 27-46 .
- 田野村忠温(2010): 日本語コーパスとコロケーション - 辞書記述への応用の可能性 - . 『言語研究 (Gengo Kenkyu)』138 , 1-23 .
- 堀正広(2009): 英語コロケーション研究入門 . 研究社 .
- Cowie, A.P. (2009): 慣用連語辞書: 東欧と西欧の比較 . Cowie, A.P. (編) 『慣用連語とコロケーション』 くらしお出版所収 .
- Hausmann, F.J. (1985): Kollokationen im deutschen Wörterbuch. In: Bergenholtz, H. u. J. Mugdan (Hrsg.): Lexikographie und Grammatik: Akten des Essener Kolloquiums zur Grammatik im Wörterbuch, 28-30.6.1984. Berlin. 118-129.
- Tschirner, E. (2008): Grund- und Aufbauwortschatz DaF nach Themen. Berlin.

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 6 件)

井口靖、恒川元行、黒田廉、成田克史、カン ミンギョン、コロケーションと独和辞典の記述 - コロケーション活用の可能性と限界 - 、三重大学教養教育機構研究紀要、4、73-89、2019、分担執筆による研究報告、査読なし

恒川元行、コーパスを用いた Hammer 複合名詞の調査、九州大学言語文化研究院、言文論究、42、39-48、2019、研究報告、査読なし

恒川元行、コーパスを用いた hammer 複合形容詞の調査、九州大学言語文化研究院、言文論究、41、45-54、2018、研究報告、査読なし

井口靖、恒川元行、黒田廉、成田克史、カン ミンギョン、ドイツ語におけるコロケーション分析とその辞典記述の問題点、三重大学教養教育機構研究紀要、3、51-67、2018、分担執筆による研究報告、査読なし

恒川元行、ドイツ語コロケーション辞典の試行的比較、九州大学言語文化研究院、言文論究、39、67-74、2017、研究報告、査読なし

恒川元行、拡大形造語のアクセント、九州大学言語文化研究院、言語科学、51、59-75、2016、研究報告、査読なし

〔学会発表〕(計 2 件)

恒川元行、強調の複合語 (Steigerungskomposita) について、日本独文学会西日本支部学会第 69 回研究発表会、2017 年 11 月 25 日、山口大学

恒川元行、拡大形造語 (Augmentativbildungen) について - 特にアクセントの特徴の点から - 、日本独文学会西日本支部学会第 68 回研究発表会、2016 年 11 月 26 日、長崎大学

6 . 研究組織

- (1) 研究分担者
- (2) 研究協力者

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。